

西の池学園

夏の思い出のひと

毎年夏に、地域の方と一緒に「ふれあいまつり」が、今年もコロナ禍により中止となってしまいました。利用者の皆さんに少しでも夏の思い出づくりができるように、西の池学園自治会の皆さんと職員が協力して「花火大会」と「夏まつり」を開催しました。

8月6日は「花火大会」、夕食後から中庭に集まり、大きなスイカを食べた後は待ちに待った花火です！順番に花火が上がると、食い入るように見る方や、歓声を上げながら見る方それぞれの楽しみ方でしたが、最後に打上花火が連続で上がると、たくさんの拍手と大きな歓声が上がりました。

そして8月20日は「夏まつり」です。連日の雨が止まず、食堂前の通路と屋内で行いました。焼きそばやかき氷などの夏祭り定番メニューが屋台に並び、唐揚げのキッチンカーにもお越し頂いて、お祭りムードに皆さん嬉しそうな様子でした。輪投げやスパーボールすくいなどのゲームもあり、一喜一憂しながら、皆さんとても楽しんでおられました。

コロナ禍により行事や外出の機会が減ってしまい、日々の楽しみが少なくなっている利用者の皆さんですが、今回の「花火大会」と「夏まつり」を通して少しでも笑顔になって頂けると幸いです。



これからも、皆さんが楽しめる行事を、自治会の皆さんと一緒に作っていきます。

支援員 吉員 友紀乃

ブルーホーム

平和を祈念して

今年で76回目の原爆の日を迎えました。利用者のKさんは、余暇の時間に、一羽一羽に願いを込めて折り鶴を折り続けています。Kさんは、「鶴を折ることが好き。平和になって欲しい。私も皆も、幸せになって欲しい」と話しておられます。

毎年、8月には平和記念公園へ鶴を奉納していましたが、昨年からコロナ禍で奉納出来ていません。その為、2年間で約五千羽の鶴が出来上がり、他の利用者の皆さんにも協力して頂いて紐を通すと、部屋に溢れるほどたくさんの折り鶴の束になりました。

コロナ禍で、世界中で制限された生活が続いています。Kさんの「これからも鶴を折りたい。コロナが終わったら、直接奉納したい」という言葉に、Kさんの平和を願う強い気持ちが伝わってきます。



千羽鶴を折ったKさん



戦争や原爆の悲惨さを忘れない為にも、Kさんの様に平和を祈る人が増えて欲しいと思います。

支援員 芝田 治子

あおぞら工房

さつま芋でスイーツを！

現在、敷地内の休耕地となっていた畑を活用して、さつま芋を育てています。4月から利用者と一緒に畑を耕し、畝を作り、防草シートや防獣柵を設置して苗を植えました。普段とは違う作業なので興味津々で行う方や、鍬を器用に使う方もいるなど、新たな一面を発見することができました。今は畑の水やりや草抜きの仕事を一緒に行っており、皆さん収穫を楽しみにされています。

収穫したさつま芋は、キュアリングという技術や熟成によって甘みが増すよう、機材を導入したり、販売するスイーツのレシピを利用者と一緒に考えたりして商品完成させていきます。

ゆくゆくは平成会の名物となるよう、タイヤリヤーインスタグラムなどを活用して、皆様にホッとな情報をお届けしますので、ぜひチェックしてみてください！

「ぜひご期待！」です。

支援員 川崎 大希



よく茂ったさつま芋畑



多機能型事業所あさひ

2度の浸水被害を乗り越えて

令和3年7月8日、あさひは豪雨被害に遭いました。

3年前の西日本豪雨災害の時には、周辺道路の寸断等により職員の出勤も難しい中、懸命の復旧作業を経て1週間で営業を再開しました。

今回の豪雨災害でも、3年前とほぼ同程度の床上15cmの浸水となりましたが、全職員が出動し復旧作業に努め、前回の経験を生かして2日で利用者の皆様を迎え入れることができました。

作業中には赤坂理事長からの差し入や、平成会各事業所から職員の手伝いもあり、改めて平成会の一員であり、たくさんの人に支えられていることを強く感じました。

また、突然の閉所にもかかわらず、暖かい激励のお言葉をかけて下さった利用者の皆様、ご家族の皆様にも大変感謝いたします。

2度の水害を乗り越え、あさひは団結力がアップしたように感じました。そしてこれからも、お互いに助け合える平成会であり続けたいと思います。

支援員 赤木 千佳



救助隊の出動



事務所の浸水状況

デイセンター「だま

久しぶりのドライブ

例年、デイセンター「だま」では旅行や一日外出などの屋外活動を実施していましたが、新型コロナウイルスが発生した昨年以降は屋外での活動を中止していました。そして今年度も屋外活動を自粛していましたが、外出を心待ちにしている方がたくさんおられる為、感染が落ち着いた頃を見計らってドライブを再開しました。

平時のドライブであれば目的地に到着後、散歩をしたりジュースを飲んだりしますが、感染リスクを考慮し、途中で降りずにドライブしました。いつもと違う内容なので事前に利用者へ目的で降車しないことや、デイセンターに帰ってからジュースを飲む事をお伝えしました。

ドライブ当日、皆さんは久しぶりのドライブをとても楽しみにされていて「今日はドライブじゃね」等の会話から、待ち遠しかった様子が伺えました。

ドライブ中は、マスク越しに笑顔でお話をされる方、窓の外の景色を眺められる方、外に向かって手を振られる方など様々な過ごし方で楽しんでおられました。皆さんが喜ばれる様子を見て、ドライブを企画して良かったと感じました。

今もなお新型コロナウイルスの影響で活動を制限していますが、一日も早く感染が収束する事を願うと共に、これからも色々な工夫や感染予防対策を徹底して、利用者の皆さんに楽しんでいただける活動を提供していきます。

支援員 宗藤 永莉



※誌面の写真、名前の記載については、ご本人の同意を得て掲載しています。

放課後等デイサービススタ風

みんな大好き水遊び！

毎年、夕風では夏休みに小学生を対象としたプール遊びをしています。しかし、昨年は新型コロナウイルスの影響で実施することができませんでした。

「今年はプールある？」と子どもたちの不安そうなお声と待ち望んでいる声があがった為、このご時世でも水遊びを楽しめる方法はないか？と職員で話し合いました。

そこで用意したのが、お手製のミスト付のテントや少し大きめの洗面器に水をためての水遊びです。他にも、風船を金魚に見立てた風船すくいや水鉄砲射撃を準備しました。

実施当日は、一度に2人までと人数制限をして、風船すくいや水鉄砲で遊んだり、洗面器の水を頭からかぶったりする中で、たくさんの方々の笑顔が見られました。

今後も、子どもたちの想いを大切に、感染対策をしながら、楽しい活動を考えていきたいと思っています。



ミスト付きテントで水遊び



児童指導員 岡野 鈴